

氏名	折本有貴
----	------

<目的>

透析患者の末梢動脈疾患(PAD)の合併率は高く、また PAD を合併した透析患者の死亡率は高いといわれている。この後ろ向き研究の目的は、足病変を有する透析患者の生存率と救肢率を明らかにし、どのようにこれらの患者を治療するのがよいのか検討した。

<方法>

1980年から2011年の間、愛知医科大学病院で入院加療となった足病変を有する透析患者234例319肢を対象とした。生存と救肢に影響する因子をログランク検定とCOX比例ハザード法を用い後ろ向きに比較した。これらの因子を Kaplan-Meier 分析で検定した。

<結果>

234人の患者(男性72%)は入院時の平均年齢65.4歳であり、84%の患者に糖尿病の合併を認めた。平均の透析期間は6.8年であった。追跡期間の間に171人の患者(73%)が死亡した。1年、3年、5年、7年の生存率はそれぞれ65.2%、35.5%、23.4%、12.8%であった。多変量解析では、入院時の年齢と心電図上の虚血変化が独立した死亡のリスクを増大させる因子であった(それぞれハザード比は1.02、1.48)。一方で高脂血症は死亡のリスクを減少させる因子であった(ハザード比は0.56)。重症下肢虚血の合併は247肢(77%)に認めた。血行再建術は88肢(28%)に施行され、119肢(37%)は大切断が必要であった。全体の1年、3年、5年、7年の救肢率はそれぞれ68.9%、57.2%、53.8%、51.7%であった。多変量解析では、開存している血行再建とアルブミンが独立した大切断を減少させる因子であった(それぞれハザード比は0.265、0.392)

<結論>

足病変を有する透析患者は高い死亡率と大切断率を有し予後が不良である。速やかな虚血性心疾患などを含めた全身状態の評価と、虚血や感染の局所の傷の状態の評価が足病変を有する透析患者を治療するために必要である。

氏名	折本有貴
----	------

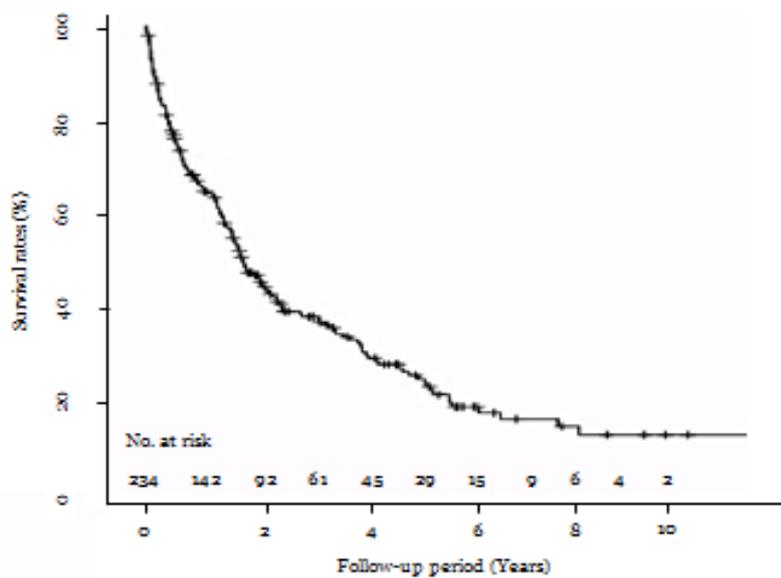


Fig 1. Survival in 234 hemodialysis patients with foot lesions.

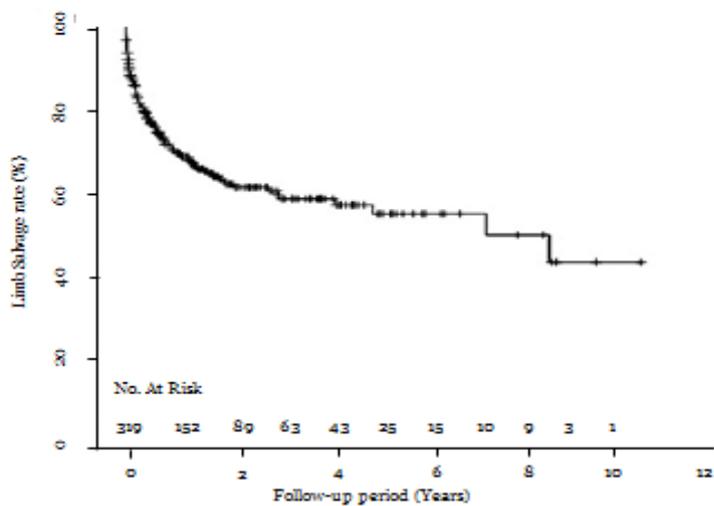


Fig. 2. Overall limb salvage rates of 319 limbs with foot lesions